

同 廿八年九月五日

○利製の海野 本県水産試験場にて飼養中なる海野三頭の内一頭は去二日激死せしを以て昨日松江に搬送し末次本町米石小伊之助に利製せしむることありたり

同 廿八年九月廿日

○竹島の漁業 韓国竹島に集航する日本漁船の数は昨年々歳々増加し来り本年は四百六十隻の多きに達したり而して一隻の乗組人員はアソコ細、鯨縄は大佐三人、鯨流網は五人存るを以て此等組統人員は千四百二十九人なり前年より隻数百四十九人員三百八十八人を増加したり此等漁船も亦も多く出し居るは長崎県等の百十三隻を最とし其他福岡、熊本、香川、愛媛、山口、徳島等とす。(以下省略)

山陰新聞 廿八年十月三日

○竹島探検の事 本県の新領土たる隠岐国附近竹島探検の事は去八月決行する筈なりしに天候不順良のため遂に無期延期となりしが早や天候も定まりれば本月中に実行せんと其向におもて協議中なるか模様には依れば明春に延期することになり人も知れずと

山陰新聞 明治廿九年三月十日

○竹島行決定 延期に延期を重ねたる竹島行は愈々来廿四五の両日とらつて伯耆境港解纜往復五日間の見込にて樹陵島へ寄港する都合なるかに船は第二隠岐丸の予定にして不日隠岐島司若くは島吏書記一名か万事打合のたの境港へ来着する筈にして人員並に大名は未だ決定せざるも県立各子校職員は殆ど本年試験にて差支あるを以て渡航せざるべく人員は約三十名前後なるべしと右に就き県衛生技師員岡崎正太郎氏は県知事より同島における衛生調査を囑託せしる目下技師金子治氏は水産調査として渡航する筈

同 廿九年三月十四日

◎竹島視察の事 既記の如く今回神西第三部長は各部の庶
技手及水産試験場農事試験場の技手等同伴愈々本月二十三日
境尻第二防波丸にて渡航することとなり漁業農事衛生測量其他
各専門家精密なる調査をなす筈なれば得る所少からざるべしと
尚ほ防波丸よりは東島司以下警務官其他便乗の筈にて本社も之れ
が案内を受けたり

同 廿九年三月十六日

◎竹島渡航案内者 早舟より今回竹島渡航の案内を受けしは左の如
くなるか内小村農事試験場技手 雪吹師範之長教諭は既に同行し去
るに月 回終せり

早舟二ニ中子と早舟及首席教諭 農事試験場員一名 新肉社 八
東郡秋鹿中子校訓導 奥原福市

山陰新肉 明治廿九年三月廿四日

◎竹島渡航延期 昨日西郷出発の筈なりしも天候の爲め本日午後
二時延期せりとの電報配達ありし

◎竹島渡航一行 昨日午前五時三十分境港解纜今十一時五十分西郷港
に到着の旨昨日電報ありたり

山陰新肉 明治廿九年三月廿三日

◎竹島渡航の予定 本日午後六時西郷港着二十四日午前中
竹島着の上今島の視察をア今夜今島を去り二十五日樺陵島
に寄港(今島)今夜と出立して二十六日正午西郷港に帰着する予定
なりと

▲東島司 一昨日出松皆美館投宿昨日出発の竹島渡航の
一行に加る

山陰新肉 廿九年三月廿七日

◎竹島渡航延期 昨日西郷出発の筈なりしも天候の爲延期し

昨日午後五時三十分出発今拂曉前着島の不定なる旨來電あり

廿九年三月廿八日 二十七日午後十一時

司 竹島一行消息 二十六日午後七時十六分西郷発電に曰く
一行五拾名は只今当港出発竹島に向ふとあり 28

同 廿九年三月廿一日

竹島一行西郷出発 昨日午前十時三十分西郷出発の電報
ありたはは今日午後五時正前後境に着すへきと今所より
当市に向け航行の最終船は出発の後存ぬは当市帰着は
本日午前中なるべし

同 廿九年四月一日

竹島土産 一行五十名は既記の如く二十七日午前八時竹島
着道に上陸す數名各方面に令担調査をアハたるが予め
噂ありし如く海野群棲せるを以て一行は網又は銃を以て

或は打撲して其拾頭を捕獲内一頭は生捕し三頭を船に積載し
午後二時三十分出帆せるが同島には海苔の産するを見たり斯く
午後八時頃撈獲島の岸洞に着一船は直に上陸せるが道間より
は日本船官及郵便局長人長等船二度を職して歓迎せり依て同島
の郵便局長片岡某氏の家に宿を請ふ一船は此処に泊し撈獲
を待て上陸し一船守を訪問し本邦人の一船部長の通弁にて島
の情況を尋ね夫れより一船は島内の一船は此海の何れも調査を
なし午後八時解纜翌二十九日午後四時三十分西郷着官長有志
の歓迎合に望み翌三十日午前十時出発午後三時三十分境着
直に二船を来り換へ同七時過ぎ帰松せしけりと 神西部長は
陸軍國情調査の爲め中島大尉 二日小席を伴ひて滞島せり竹島の
二船は獲たる海野三頭の中一頭は一行に於て料理し一頭は撈獲
島の郡守に贈り一頭は衛生上の研究材料として高野を歸る事と
となり昨同境より贈り来りしを以て目下衛生試験場にて製す由
しより 神西部長は撈獲島に到り郡守を訪ふて「余は大日本帝國
島根県の勸業に従事する役員なり此島と我が管轄に係る竹島

は接しけり又東島二我が邦人の掃留するものあり万事に付き
船情を望むも又東島を視察するの予定あり何か進呈するべき
ものも携帶すべかりしを今回避難の爲の偶然にも着島せし
誤にして何も贈呈するものなし幸に茲に竹島に於て海驛を獲
たれは贈呈せんとす受納ありは幸甚」と郡守參入て曰く「然り
掃留の由邦人に孰ては余に於て充分保護すべし又海驛の贈呈
を受く若し海驛にして味美なりせば再々贈呈を望む可まら

山陰新聞 廿九年四月三日

●竹島渡航日記(一) 旅行者某生

廿二日 十三時に船に乗じ松江を去す船中には東島司吉田親務
局長其他数氏の知名者あり本日は余りに天気晴朗であり故
め却つて後日の天候を憂遣はる、程であるが何れも甲板に出
てて本庄真山など指しては又大山を觀みて見馴れ丸山も珍珍
しいもの、様に諸の材料とはなつて甲板の上は一入の景色を増し
たのである船は僅ち眺め來つた山々の中々も森山附近の第一紀

の廻り質の山は他のものとは異つて黄褐色の禿頭を表はし層々
豊彦などの画に似る所の山の様に温しき姿に又奇抜なる形が加はつて
特別なる一幅の山水が現れぬのである

▲境についてから一行は合れて油屋引野の両方に泊つた面白くも
ない何時も替らぬ所の境の港の内でも一寸替つて居ると思はれ
たのは近來大令大阪風の床が多くなつたことであるよ小とも由來狭
かい所であるから何を思ふはとも仕様がなないので同行者の中につくた
の必要があるとして四つに歩き去人かあつたが町内で僅かに再しか
持たないといつて居た、

▲境の港計りてなく夜見浜全体は其風土から人情など凡へて伯耆の
様で半ば又出雲風が加はつた所があるのは誰も知つて居る所であるが
此様な人事上の事は他の余り關係もなきや所の地質上から見
るも一致することがある境の港を乗せる所の夜見ヶ浜の砂の産即
ち地盤の甚礎を見る時には石英斑岩と云ふ特別なる隠れた岩が
出雲の安東の東方から繞きて出て居る日野川其他から流れ來つた所
の砂は波の爲めに打ち寄せられて此岩の上に集まり相連つて一帯の長

い砂浜なつたものであるので只伯耆の砂計りて此半島の形がさ
たといふ箇單なる誤ではなぬ箇様なる有様であるからつまり伯耆
の境は伯耆西部の障壁であると同時に又出雲の関明となること
免れなぬことである

廿三日午前四時起床急いで第二隠岐丸に乗り入り境を突す
頃には未だ夜も明けなぬ箇中二漸く提灯の光で船室は導かれ
たのであるが彼星する内に舟は美保島の沖合にかゝらんとして東
天又薄く光明を放ちんとして誠に地よき薄明の現象をば暫
くの向星して居たやかて水平線から昇り出つた所の太陽は珍
らしいところ多数の人は甲板の上に出て之を拜せんとするものも
あつた吾輩も亦水鏡繪具などを取り出して彩色の彩雲の向に
半ば頭を出した所の不思議に大形なる朱色の陽暉と星色
漆の如き海水をば其下に染めなるとし居た

天気は比上なく風も亦少なり方であつたせよとも船波は向か
つたものであるから船窓の中には大令船長も乗せられた人もあつたか
兎に角六時間も立たぬ内に無事西行港につきた随分款の又
も多かつたが万事東島司と中島具保の尽力で訪に都合よく冬
三爪に分れて宿屋につくこととなつた

此日大山は極めて鮮明に見えてよ夫の雲もないのである箇様
に大山が余りに鮮明に見えぬのはつまり低気圧生の影響を
示して居るのである箇様漢師などは比大山の雲の有無を見て
天候の如何を予知することである吾輩も曾て天候を云々
た如くに夕刻よりは何となく夜な摸揉となり人とし女のである
困つたものたといふを眺めて然嘆する人もあつたしましゆつくりし賜へ
と故うち付いて居る人もあつた二人は路合に船を出したるころ大変化と
隠岐の海の水夫などは三つ居たか勿論測候所から天候不徳の兆あ
りといふ電報が達し女貝るく雨行きは早くなつた五時頃には降
雪の様に空の怒つたのである

山陰新傳 廿九年四月六日
竹島渡航日記(三) 旅行者某生
筆紺青を以て津のた様方八尾川と突元飛龍の如き城山の景

は奥に海辺にあつたと思はれな程の絶崖である比治らしい西側
裏面の風色があるのかはならず夫れとは相反した士女の裏面は
筋々厭ふべき異様な花計り咲き乱れて居るので城山は急めに
泣いて居るであろう此山を渡す所の八長川は潺湲として流れ有る
なる院は物を下方へ輸すのである物の筏に乗して掉すところの棧
夫は誰か以て崖壁を思はないものがあるう

八長川に沿ふて院には割に大きい所の八田曲事試験場がある
支場長の田中君は例の敷心家として此岸標本などよく整理せられた
又清き川堤に新たに三種を植へられたが以時花歌に待ち食せられた
云ふ所であつた之は面白き趣向と思はれた

西御渡を断し舟に乗して東半島を横きり男やも一舟りして
馬蹄石の産地を御渡へに行き人もあるたが奥に其奥々たる赤色
たつららしき石葉想面岩の中に黒色鼠色などの馬蹄石が異々
眼せられて居たには妙なるぬ人まで絶壁に争はしめられたのである
馬蹄石の近傍に男池とて一寸奇麗なる堤の様を水溜りがある之は
普通である所の池の様には窪地に水が溜滞したのではなかつて全く石見

の波根湖や鳥取の湖山池などと同じ成因であつて海兵の瀉と称する
ものである比治が藪の所の日本海の波を砂や小石を圍んで障壁を作
つたがこつて来たものである若しぬのはたつたのかなく女より外の落
つるものてなかつたなら只しき内海となつたのであつたか東に南比
男池は並行のものは異なつて砂の代りに小石を以て塞げられぬところか
此の所では一寸珍しい一奇である

男池の附近を徘徊する内に一陣の風は吹き来つて今や其れ盛なりである
所のちんちやうげの自生を知らしめこのは実に其日の果実であつた
さゆともし此ゆをさる所の屈こそ長く西御に我々の正止めを命し
小と花が軍かの様に折角取つた所ののまで抛け棄てたのである

山陰新聞 廿九年四月八日

竹島渡航日記 (三) 旅行者 芥末

雲行きを眺めて三日の向風は我が奥に此度。風は不軍にも旋風三拍子
つた廿四日には強いの所の向風が吹いておぼつか馬は再びりして向か
長風は西に吹し遂に東北となり終つたのである

いあること下らぬ日島の月が二つあつてあつたから見るよく観察する
ることの出来たのである又、角之て、早や風は止まぬはなるめ天候
は大丈夫測候所の電報をとけ直ぐ必要はないと自づからして三時
七廿六日午六時半強西向き山出し北を指して竹島に向つた
てある

廿七日 夜も明けた彼方に見ゆるは竹島なるなど、恐らくは
なし六時半の頃近づいて凡そ四里計りの所に至つた確かに之は此一行
の目的船なるものに相違なかつた見も知らぬ所存も此通りと
事務長の自慢今や見よう様存心地かする実に其に大元たる布衣の
者二つの島が水平線の上に載つて居る様は広い大洋を床とし大所の
に相違なかつた様々なる方面から眺め又眺つて拜したる様、
かした兎や角する内に三頭の大なるふかか表す小頭を並へて船を
襲ふ来るのである之はなかく奇観であつた四五向も折つて夫れ
ふかくと云ふ内に、
あじかの終に富んで居る、所の中井君は船首に居らんと
此瞬間にそれあじかがと云ふ多数の人は俄かに船首に集まつて

望遠鏡を取り出すなど一時は騒であつたが、も数千のあじかが、
なつて此方を眺めて居る、しつとれ又其処にと云ふ、なる程此場所にも
数千のものが蛆の如くに群集して居る、船が近づくと、
は犬の長吠の様を異様なる声を出して、
比落ちた所のあじかは只、
余ら絶えず咆哮して居る、
浴場の浴客が競争でもする様に、
竹島について頂は丁度廿七日午前の八時半であつたが、
浪のやき止る、
船の目は、
の漁夫なるらんいかの餌で、
のかな様なる魚が、
は筒様なる魚が、
く、と、
我輩は第一着は竹島に行かぬは、
さしと、

く、と、
我輩は第一着は竹島に行かぬは、
さしと、

に這渡船に乗り過るは其に遠慮であつた意面高君や中井君は今や
漢夫を引き連れて彼方に渡り行くことと意やませ
▲さて之を引馴らすまして居る言はれぬも考らぬは代へ漢夫等を誘ひて
テーマに打ち来りて隠岐丸を下つたのである観音島の彼方より微風は
吹き来つて連は左舷を打ち下つた船と相知して第一船の後
を追ひ行き去る劇しき潮汐に流されて漢夫も稍困つたのである

山陰新内 廿九年四月十日

◎竹島渡航日記(四) 旅行者サマ生

▲実際にアムカの居る所に行きて見れば圍いて居た談とは多少違つ
て居た如何にしても実見もしなければならぬものであるアムカを
捕獲する所は洞穴でなければならぬ一方から他方に通する様な洞
穴の中に多数群つて居るそこで一方の洞穴の前面に網を張り他
方の洞穴には番人も遣いで引水を取ることを防ぐのであるやがて網を
張り引かれ我々のテーマは今や岸に到着し我々先にと岩上には飛
ぶ物らんとする時遂に頭を一つ来てつて網にかつたのである網の巾さ

は凡そ四尺長さは適宜である網の目は一寸と五分刻である其ニア
イカは馬鹿なものであつて洞穴から水中を潜り出でんとする時網の
目と頭をすすめてあつてその間に穴を注意さへして居れば一頭も全す所は
ない程によい捕へらるゝのであるアムカも今少しづつ所をく
は引水引らるゝものと思はれ若し之が獅子や虎の様には
恐ろしく指の所がよめは幾度捕ふも捕ふる又けは快である
それともし彼れアムカなるものは何の慮もなす女子供の様は無邪
氣に戯れて居るのが網にかつて水中で窒息する呼吸が出来
からなくと治さす所など其の真の母なるものである
我々が捕ふしもの、中では大なるものは長六尺大八尺と大ききものと
四尺に今なる竹筒様のものが僅か二時向も立つたため二十頭許り
も取れたのである竹筒様に容易く網にかゝる所は不致なるものである
けれども実に其馬の様なもの幾度となく岩上に特の首をこしき
なした所は何とも言はれぬ杜撰であつた初めはなかく思つて居た
中井君の所を千頭獲たと云ふ語は今年に大きいらしと云ふと
今我々を目撃し却つて語より實際の大なることを知つたのである